

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700106		
法人名	株式会社 なかよし		
事業所名	グループホーム こよし		
所在地	岡山県井原市高屋町3-25-30		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvoVoCd=3390700106-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔や笑い声のある家庭的な雰囲気を作り、入居者様一人ひとりが自分らしく穏やかに過ごしていただけるよう柔軟な対応を心掛けています。また、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族も安心して過ごしていただけるよう連絡を密にし一緒に支え合っていけるよう信頼関係を作っていくと考えています。季節を感じられるよう散歩やドライブに出かけたり、各月ごとにお楽しみランチやおやつを作り、日々の生活の中で役割を持っていただけるよう応援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年4月から、夜間の安全と安心のため宿直者を常動している。結果、利用者の転倒事故に繋がる行為や不穏が減少した。代表者は、利益追求より利用者と職員に必要な愛情・人・物を惜しみなく提供している。認知症が高度となり夜間暴れる利用者には、毎夜毎夜、代表者が自ら対応した事実もある。開設から間もなく3年目を迎えるが離職者が1名も出ていない。この事からも本当に働きやすい職場だと痛感し、感動を覚える。職員は皆優しく思い遣りがあり、ある利用者の詠んだ短歌にも、職員の笑顔やつないだ手のぬくもりから伝わる愛情が表現されていた。今年、認知症デイサービスが隣に開所し、「もの忘れ相談プログラム」等を利用しながら、共に認知症の改善に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に認識していただけるよう施設内の目につく所数か所に掲示している。ミーティングや日々の業務の中で、何を優先してケアを行うかを決める軸になっている。	笑顔で来訪者を出迎え、信頼関係を深め、理念である「気軽に立ち寄れる環境づくり」を目指している。もう一つの理念に掲げる「地域交流を図る」為に、運営推進会議で働きかけ、学校との交流を実現した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して働きかけ学校行事への誘いをいただき、参加することが出来た。また、地域のお祭りにも参加させていただいた。	地域交流をより一層図る為、運営推進会議時の議題に掲げ、中学校の運動会や文化祭に参加出来るようになった。文化祭のテーマ曲である「ふるさと」を、利用者も楽しそうに一緒に口ずさんでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例報告を行い、地域の方々に理解を得ている。また、学校などの行事に参加させていただいたことが地域との馴染みの関係づくりにつながると考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より認知デイも加わり、2ヶ月に1回の事業報告を行っている。地域の方の理解を得ながらサービス向上に活かし、地域と密着したグループホームを目指している。	地元出身である代表者の人徳により、様々な協議会の会長や校長が多数出席し、活発な意見交換が行なわれている。以前は3ヶ月に1回実施していた運営推進会議を2ヶ月毎に実施する事で、より一層サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者も運営推進会議に出席して頂き、取り組みを伝えている。そこでの意見や情報をサービスに行かし、協力的な関係を築けるよう努めている。	事故が発生し、受診した際は必ず事故報告書を行政に提出している。行政からは「真面目な事業所ですね」と褒められた。何事も包み隠さず公にする「こよし」は、行政からの信頼も厚い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者がその人らしく暮らしていけるよう関わっている。ミーティングと同時に勉強会を開催。身体拘束をテーマに取り上げ、正しい理解をしたうえで安全かつ行動を制限しないケアを行っている。	転倒防止対策として使用しているセンサーマットは、身体拘束には該当しないと行政に確認したが、出来る限り使用しない方向に持っていきたいと考え、現在は鈴と見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に「虐待」のテーマを取り上げ勉強会を開催。利用者の立場に立って耳を傾け声掛けや態度に気をつけている。虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ制度を利用する入居者がおられない。必要時には活用できるよう学ぶ機会を、と考えているがまだできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約業務を行う。本人、家族が疑問に思われることがないよう、一つ一つ項目、内容を説明させていただき、随時疑問点にはお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。入居者やご家族が気軽に意見や要望を話していただける関係づくりを心掛けている。意見、要望は早急に対応し運営に反映させていく。	拘縮状態にある利用者の入居が決まった時は、リクライニング可能な車椅子を通常用と入浴用の2種類購入し、受け入れ態勢を整えた。面会時には必ず、食事の量や睡眠等の状況を伝え、要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを設け、職員の意見を引き出している。普段は「申し送りノート」や、日々の勤務の中での会話で統一を図り、早い対応を心掛けている。	代表者は職員から出た提案を常に取り入れている為、何でも言いやすい。開設から約4年になるが、離職者は一人も居ない。この事実からも働きやすい職場だと思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の勤務状況を把握し、声掛けや会話により向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や、外部研修に可能な限り参加し、参加したメンバーから皆に広めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市サービス連絡協議会や地域の研修会に出席しながら、他の事業所と交流を図ったり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約までに本人、家族と面談し、不安なこと、当事業所に臨むことをお聞きしながら、安心につながるよう一つ一つ説明し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までの家族の負担、不安や本人への思いにじっくり耳を傾けて一緒に支え合う関係でいられるよう信頼のおける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談する段階で、どういう関わりが必要か、どう関わることで、家族も安心して生活が送れるかを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを常に持ち、本人の意思を大切にしながら、できることで役割を持っている。雑巾縫い、部屋の掃除、食器洗いなどして頂きながら、生活を共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人の様子を家族に密に伝えながら、いつでも面会に来て頂ける雰囲気づくりを大切にしている。受診の同行、買い物など家族との外出もあり、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、知人が気軽に来所しやすいよう雰囲気作りに努めている。コミュニケーションがスムーズにできるよう職員が間に入り会話をフォローすることもある。法人内デイにお連れすることも多い。	馴染みの美容院、婦人会、従兄弟、孫等面会者は多い。来訪時は必ず笑顔で迎え傾聴を心掛け、信頼関係を深めているので、いつでも気軽に訪れる事が出来る。依然通っていたデイサービスの友達にも会いに出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの様子を観察し、関わりがもてるよう席を考えたり、職員が関わることで孤立せず、穏やかに過ごせるよう雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに変わられた時は情報提供を行ったり、終了後も関わりを必要とする家族とは、連絡を取り合い相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との毎日のコミュニケーションから、希望を把握できるよう努めている。自分の思いを伝えるのが困難な方に対しては、家族から情報をもらったり、職員間で検討し、その人らしい暮らしを見出そうとしている。	入居後も在宅での暮らしを強く希望していた利用者の気持ちに寄り添い、打ち込める事を一緒に探して気を紛らわせている。職員の思いやりを感じ、気持ちの折り合いが少しずつ付いてきたと利用者が教えてくれた。職員ヒヤリング時も、利用者の気持ちを考えて涙ぐむ姿が印象的であった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からバックグラウンドや本人のこだわり等の情報をいただいている。また、以前担当のケアマネからも、これまでの様子を情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、その方に応じた一日の過ごし方が出来るよう努めている。また同じ時間を共有する中で心身の状態変化に気づく。それを記録として残し職員全員で情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当の職員を決めている。本人やご家族の意向を聞き、現状の課題や本人の持っている力についても話し合いながら、楽しみが持てたり、より良く生活できるような介護計画の作成に努めている。	6ヶ月毎に管理者・ケアマネジャー・担当者が絶対参加でモニタリングを行う。個人記録を再度確認して気になる点を洗い出し、次回のケアプランに反映させている。家族の要望は面会時に確認し、取り入れている。	個人ごとの日々の記録は詳細で状況把握がしやすいが、定期的見直し作業を円滑に行える工夫をして、更に関係者間でのプランの共有につなげたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアの実践など個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、統一したケアにもつなげている。また、モニタリング時にも活用し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれてくるニーズに出来るだけ早急に対応するよう努めている。本人の思いをしっかりと聞きご家族と連携をとりながら柔軟な対応を行っている。また法人内他事業所(認知デイ)との合同行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の他事業所への行事参加、子供会や近隣学校との交流、ボランティアによる絵手紙教室等地域の人との関わりが増えてきている。今後もさらに楽しみが持てるよう地域資源を利用していきたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続して頂いている。家族との受診に同席させて頂いたり、往診時に家族に代わり状況や経過等細かく伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。とても良い関係を築けている。	受診は基本、家族対応でお願いしている。今後の生活面で注意する点等を確認する為、検査結果を聞く時は同席をさせてもらっている。現在看護師の資格を持つ職員が、何かあった場合は先生との橋渡しをしてくれるので、医療面は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時や急変時はもちろん、便秘や血圧、服薬のことなど、日常生活の中で気になることを看護師に密に連絡、相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の生活情報を病院へ提供する。入院中は本人に面会に行くと共に、看護師や医師に面談、状態を把握する。退院が決まったら日常生活の注意点等確認し職員間で統一する。各々かかりつけ医との関係づくりはスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お元気な頃の本人の思い、またご家族の思いを十分に聞き取り、主治医、事業所を混じえて方針を決める。ご家族が思い通りの看取りができるよう、医師とも密に連絡をとり対応していく。状況によりご家族の思いを確認し、支援していく。	開所4ヶ月目に初めての看取りを行い、以後看取りはない。終末期は、看護師が毎日点滴に来てくれ、家族も仕事終りに訪れてくれた。当初看取りに対する不安感は強かったが、主治医とはいつでも連絡できる体制が取られ、一つ一つ指示がもらえた為、遣りきることが出来た。今後も医師と家族の協力が得られるならば、最期までお世話をしたと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導の下、救命救急法の指導を受けたり、定期的に勉強会を行い、毎回テーマに沿ってスタッフ皆で確認合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、近隣の人の協力も得て、年に2回防災訓練を実施。消火避難方法や連絡方法の確認を行っている。	開所時から近所の方に災害時の避難協力をお願いしていた。いざという時の為に、室内の状況を確認して欲しいと考え避難訓練に参加してもらっている。今年度から宿直者の常勤により、夜間の災害も安心感が増している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム内での利用者間の関係が穏やかでいられるよう会話の間を取り持ったり、代返したりして、利用者の人格を尊重し大切にしている。各居室に入る時は本人の了解を得ている。	排泄の状況を確認して体調管理に努めているが、羞恥心の強い利用者には、カレンダーに印をつけてもらい自主申告制にしている。職員は、家族との会話の中で他の利用者の情報を絶対に話さない為、自分達の情報が漏れることが無いと家族からも信頼されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活の中で会話や表情から思いや希望を探ったり、一人ひとりが自己決定できるような場を提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日その時の心身の状態を考慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう、その人のペースを大切にする努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう、また季節に合わせた服装が出来るよう気をつけている。散髪や髭剃りなど清潔感が保てるよう声掛け、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	持っている能力に応じて、盛り付け、片付けを一緒にして頂いている。季節や行事、食材の旬に合わせ、食事を楽しんで頂けるよう、月1回位のペースで行事食を計画している。	業者から副食を仕入れているが、毎週水曜日は近所の料理屋から配達をお願いしている。毎月のおたのしみランチは、毎回テーマを決め実施する。前は「地産地消」をテーマに、美星の青空市場に利用者と一緒に買出しに行き、地元の食材をふんだんに使った食事を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録に残し、体調や排泄、睡眠など考慮し、食事の形態や量等一人ひとりの状況に合わせる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、口腔ケアを行っている。その人に応じ、見守りや仕上げ磨きを行う。隔日で義歯を洗浄剤につけ清潔を保っている。状態により歯科受診を相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や仕草により各々の排泄パターンを把握し、それに合わせて声掛け、誘導している。体調や安全を考慮しながら出来る限りトイレでの排泄を支援している。	出来る限りトイレでの排泄を心掛け、上手く支援出来た体験を職員間で情報共有している。動脈瘤のある利用者が、排泄時に力んで破裂しないよう薬の調整を厳密にしている。個々に合った一番良い方法を考え実行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔を把握し、運動や散歩、水分摂取、食事や間食で食物繊維を摂って頂く工夫をする。起き掛けに冷たい氷水や牛乳を飲んで頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特殊浴槽を設置、またぐ動作なく入浴できる。週2、3回入浴できるようにしている。入浴拒否の方にも声掛けを工夫し、気持ちよく入って頂けるよう支援している。	重度の利用者も、特殊浴槽を利用して肩まで湯船に浸かることが出来る。全身浴はリラックス効果がある為、利用者は湯の中で歌をよく唄われる。足が冷たい時や寝付けない場合は、足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの生活習慣やその時々心身状況に応じて休息、安眠出来るよう関わっている。夜間の睡眠を妨げない程度の昼寝や、水分補給など工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を綴り、目的や量を把握する。用法容量により、分けて保存。仕分けから服用までの間に何度も確認。誤飲の無いよう努めている。変化があれば看護師に相談、受診なども検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを確認し、得意なこと、興味のあることを日々の生活の中に取り入れている。役割を持ち、満足感や達成感を味わったり気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム周辺の散歩や買い物など出来る限り時間を作り、外の空気に触れて頂けるよう支援している。ご家族と相談し、本人の体調、安全を考慮しながら遠出の外出も計画、支援を行っている。	歩ける利用者が増えた為、明日出来る業務は明日に回して少しでも時間を作り、朝と夕方の2回散歩に出掛けるよう努めている。ドライブを兼ね、季節を感じてもらえる近隣の場所にも足を運んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不要なお金は持たないようにして頂いている。欲しいものがあるときは家族と相談し買い物に出かける。レジでお金を出して頂く等一人ひとりの力に応じてお金に触れて頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は、職員が家族等へ連絡させて頂いている。またいただいた手紙等職員が代読したり、返事を送れるよう支援、一緒に投函したりすることで大切なかたとのつながりが長く続くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、装飾で生活感や季節感を感じていただいている。カーテンで光の量を調節したり、湿度や温度に気をつけている。空気清浄器やオゾン発生装置を設置し、温度や湿度、臭い、除菌に気を付け、快適に安心して暮らせる空間をつくっている。	室内消臭用オゾン発生装置を至る所に設置して感染対策と消臭に努めており、感染者は現在までほとんど出ていない。職員が自宅から持参した季節の花や散歩時に摘んだ花がテーブルに飾られ、皆で眺めたり絵画が趣味の利用者は画材にしたりと、和やかな空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	視線を考え、ソファやテーブルの配置でひとりの時間や気の合った者同志で思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込んで頂いたり、家族の面会時一緒に撮った写真等を飾っている。各々居室に表札をつけ、職員が入室の時は、本人に理由を伝え入らせて頂くようにしている。	室内は整理整頓されており、清掃も行き届き綺麗である。消臭用オゾン発生装置が設置されているので嫌な臭いがしない。孫からの葉書や利用者の作品を飾り、会話のきっかけ作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、安全に移動できるように空間に気をつけている。部屋の表札も視線にあわせ低めに設置し、「安全」かつできるだけ「自立」につながるよう工夫している。		